

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373201161
法人名	社会福祉法人 緑新会
事業所名	グループホーム しんわ
訪問調査日	平成 19年 12月 13日
評価確定日	平成 19年 12月 21日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4373201161
法人名	社会福祉法人 緑新会
事業所名	グループホーム しんわ
所在地	熊本県天草市新和町小宮地763の2 (電話) 0969-46-2544

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3-19-402		
訪問調査日	平成 19年 12月 13日	評価確定日	平成 19年 12月 21日

【情報提供票より】(H19年 11月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造セメント瓦葺平屋建て	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(11月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	89.1 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	天草市立新和病院 岡田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉協議会や病院・保育園などが隣接する福祉ゾーンの一部に、特別養護老人ホームと併設して建てられている。併設施設との連携は、職員の研修体制や夜間の緊急協力体制等に反映され、イベントや交流会等を通じた入居者の余暇活動も充実している。また、運営推進会議とホームとの関係構築もされており、今後は家族や地元住民も参加できる企画も期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の食事の際の見守りや服薬支援では、細やかな支援が徹底されるようになってきている。入居者の身体機能低下のためままならない外出支援も、職員による付き添いや見守りを多くすることで、希望に添うようにしている。ヒヤリハットや事故報告書の検証を行うことによって、対応や予防がスムーズにできるようになり成果を上げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を自分たちのケアサービスを振り返る機会と捉え、職員と意見交換しながら管理者や計画作成担当者が中心となって実施されたものである。自己評価は運営推進委員会にも報告し、評価の活用や改善項目については誠実に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	討議内容が多岐にわたって行われており、会議録や記録も整理されている。家族にも知らせる仕組みがあり、信頼される一因となっている。特に委員自身がホームの交流会を企画され、入居者も一緒に楽しんでいる様子は他に例を見ない取り組みとして評価できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時を利用したり、毎月の報告でホームの様子を知らせる事で、現状を把握してもらう努力をしている。行事のスナップ写真等を掲示し話題提供したり、意見箱も設置している。運営推進会議に出席されている家族ばかりでなく、多くの家族の意見の収集が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	立地場所が福祉ゾーンの中にあるため、施設内を中心の交流が主体となっている。併設施設で行われる行事参加や保育園児の訪問などが行われており、入居者の楽しみともなっている。近隣の地域行事への積極的な参加や、ボランティアとの交流なども期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基本理念とし、入居者に敬意を払いながら、安心した楽しい生活の支援を図っている。「職員の誓い十ヶ条」も策定し実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や運営方針が記載された事業計画を職員に配布すると共に、各種の会議でも理念に基づいた話をしている。定期的なサービス提供状況を評価し、日々のケアでの振り返りも行っている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉ゾーン内での挨拶や交流を深める努力や、法人内行事や野外活動に参加するよう努めている。		施設の立地や入居者の身体機能の低下から、外出しての近隣交流は困難のようですが、様々な機会をとおしてホーム外の人々とふれあう機会を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価や外部評価の目的や意義を理解しており、評価はケアの振り返りとして捉えている。外部評価の結果は会議を行い改善に取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業計画や実績、自己評価や外部評価結果、活動実績などの報告から、ホーム内の課題についても協議している。また、運営委員が主体的に行事参加しており、交流関係も構築されている。		

グループホーム しんわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から行政との連携は図られており、情報交換にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「グループホーム便り・思い出」を発行し、担当者からの近況報告や預かり金収支報告とともに郵送している。状態変化があれば随時の連絡もしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話や意見箱を設置することによって、家族の意見や苦情を把握し運営に反映させるよう努めている。		家族同士が話し合える機会をできるだけ提供するような支援が望まれます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は適材適所の方針とし、特にグループホームには入居者のケアに柔軟性がある職員の配置を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を通じ人材育成にも積極的に取り組んでいる。法人内研修やホーム研修を毎月開催し、全員が参加するようにしている。外部研修にも参加できるよう配慮されており、報告も行なわれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草圏域の連絡協議会に加入、世話役もしている。定期的な研修会や情報交換等を行い、サービスの質の向上に役立てている。		一般職員が合同で研修や交流ができる機会も望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族の見学や施設からの十分な説明を行っている。事前調査や話し合いを通して、入居者や家族との関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に沿いながら家族に近い視点で接するように心がけている。常に節度を持ったケアを心がけている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から把握し、入居者の視点で判断することや希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は基本的に年に2回作成し、面会時や電話でも家族の意見・意向を聴いて計画に取り入れている。		的確な介護計画作成のために、計画に沿ったケアやその記録の充実、そのための職員研修が望まれます。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議ではこまめに個別の課題や対応策を検討している。これらを状態一覧表として整理し、速やかな対応が図れるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り希望に合わせた支援を行うようにしている。併設施設との交流や合同事業を行ないながら、総合的な支援を可能にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	福祉ゾーン内の協力医療機関との連携も図られており、主治医の往診も受けている。状態の変化があれば、すばやい対応が可能な状況である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の整備・「看取り介護指針」の策定を図り、ターミナルケアを視野に入れた体制ができています。		ターミナルについては、本人・家族・主治医を交えた話し合いが十分行われることが望まれます。また、看取り指針に基づく研修の充実も期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意を表した言葉かけについては、定期的に指導を行ない、また記録も同様に尊厳を重視した内容表現に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや要望を尊重した支援を行ない、入居者本人が自分で選ぶということを意識してもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を考慮し入居者と毎日相談しながら献立をたてている。買い物にも一緒に出かけたり、皮むきや下ごしらえ・下膳等を手伝ってもらっている。穏やかに職員も一緒に食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりとしたペースで入居者の希望に応じた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者が、個性や趣味を活かして日常生活の中で自発的に役割を担えるように支援している。 (掃除、編み物、読書、裁縫、花札ゲームなど) 散歩やドライブなどで気晴らしも支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体機能低下により全員での外出は困難な状態であるが、食材の買出しや散歩・ドライブなどで個別の希望や状況に応じた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵もかけず、見守りを中心に自由に行っている。鍵をかける弊害は職員も認識しており、声かけや見守りで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎月場所や時間を変えて行っており、マニュアルも作成している。消防署からは危険箇所のチェックや防災対策へのアドバイスももらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメント時には平均的な食事量や水分量を記入し、日々の提供量に役立てている。入居者の嚥下状態や要望に応じ、職員が柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、季節の飾り付けも行っている。採光や照明にも配慮し、談話コーナーや和室でも、入居者が自由にくつろげるように配慮している。		入居者がトイレを使用した後の汚染や臭気チェックなど、細かな配慮が期待されます。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた家具や電気製品、小物なども持ち込みを支援し、整然と暮らしやすい配慮がされている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームしんわ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	天草市新和町小宮地763の2
記入者名 (管理者)	船元 貴子
記入日	平成 19 年 11 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設当初から、「ゆっくり、いっしょに、楽しく」を理念として掲げている。また、利用者様に敬意を払い、安心して楽しく暮らしていただけるよう、「職員の誓い十ヶ条」を職員間で取り決め、日々のサービスに活かしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営方針・運営理念を設定した事業計画を各職員に配布し、意義を理解してもらおうと共に、各種会議等にて理念・方針に基づいたサービスを提供するように話し、定期的にケア提供状況を確認している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域に対しては、年2回の広報やGH便りを発行し、GHの理念や役割を示し、広報活動に取り組んでいる。家族に対しても毎月、GH便り等を発行し、理念の共有を図っている。</p>	<p>今後、効果的に理念の浸透が図れるよう、ホームページ等を通じて、情報公開に力を入れていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶を通して、ひだまりの里内での交流を深める努力をしている。近隣に民家がなく、近所付き合いと呼べるものはいないのが現状。</p>	<p>地域全体を近隣としてとらえ、積極的に交流を図っていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事参加や、野外活動を通じて交流を深めている。面識ができ、地元の人からも徐々に認知されるようになった。</p>	<p>地域活動や行事には、今後も積極的な参加を行なっていきたい。利用者様本人だけに限らず、家族にも声をかけていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護者教室等で、認知症ケアを通して学んだことを地域に還元している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者の視点から、自施設を見てもらえるのは、大変ありがたいとだと感じている。自己評価を通して、自分たちを振り返り、外部評価で評価をしていただくことは、利用者様のさらなる満足度の向上につながる認識している。会議等を通じて共通の認識を持っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画・実績の報告、自己評価・外部評価報告、活動実績、サービス提供実績の報告に加え、事故防止対策や問題点の協議等を行なっている。会議録を作成し、職員間で共有することにより、会議での意見を反映させている。		委員を通じて、多方面からの意見をサービスに活かせるよう、活動の幅を広げていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営基準の確認や各種加算体制の報告、サービス提供の報告を通じて、担当者とのパイプができています。今では、疑問を感じたらすぐに連絡し対応して頂ける関係となっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個人的に知識を習得しているが、職員全員を対象とした学習の機会は設けていない。必要と思われる方への支援は可能。		今後必要性を考慮し、学習会を開催していく。制度の有効活用を図っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で、身体拘束予防委員会(虐待防止も含む)を設立し、GHからも委員を選出、月ごとに事例検討会を実施、結果報告を全職員に向けて行なっている。GH内研修においても、虐待防止について検討している。職員個々の観察力が高いため、虐待が行なわれた場合、すぐに発見できる体制となっている。(事例なし)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行い、理解を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口をGHだけではなく、法人内でも設置し、苦情等を取り扱っている。意見箱を設置し、不満・苦情を取り上げやすいような工夫がなされている。</p>	
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、GH便り・近況報告・預かり金収支報告書により、状況報告を行っている。利用者様の状況変化などが見られた場合も必ず報告を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見は面会時に汲み取る努力を行なっている。玄関先に意見箱を設置し、不満・苦情を引き出しやすいようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は職員の意見を汲み取った後、運営方針を決定している。また、月1回のグループホーム会議にて、様々な意見を出し合っている。内容については議事録に記録し、管理者・運営者に提出している。重要事項については運営者を含め、全体会議を行なっている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>介護従事者7名、看護師1名体制で、サービス提供を行っている。比較的余裕があり、急な調整が必要とされるときも柔軟に対応することができている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動等については、適材適所の方針で対応している。GHに異動してくる場合は、まずGHの環境に適應できるか、利用者ケアに柔軟性があるか等で判断されている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成については、人事考課を通じて取組みを行なっている。研修については、GH内研修を始め、法人内研修を定期的実施し、外部研修についても、できるだけ受講できるように配慮されている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	天草圏域GH連絡協議会に加入し、定期的に研修会を実施、情報交換の場を設けている。相互の連携が強固なものとなり、サービス提供や体制整備等における、問題点や疑問点が解決できる関係を構築できている。		年々、参加施設や参加者が増えているので、今後はさらに充実した研修や交流が見込める。よりよいサービスが提供できるように、他の施設での取組みなどを吸収していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みを聞き入れやすいよう、運営者・管理者自身が職員へ気軽に話しかけ、業務以外のことを話題に出すなどして親睦を深めるようにしている。職員個人が趣味を持ち、適度に楽しみながらストレス発散に役立っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を導入し、業務実績・勤務状況を把握できる体制を整え、適切に評価できている。面接を通して、改善点のサポート、評価できる部分を励まし、向上心を持って業務に当たることができるように配慮している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時や、日常会話の中で訴えや要望を聞くようにし、常日頃から利用者様が訴えや要望を伝えやすいような環境作りに努めている。約半年～1年ごとのアセスメント時にも、軽い形式の面接という形で要望を聞いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	よい印象をもってもらえるよう、明るい挨拶を心がけ、会話を多く持つように心がける。なじみの関係から、要望を多く引き出し、適切に対応することで、信頼関係を構築している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な視点から物事をとらえ、必要とされている支援を見出すよう他のサービス利用を含めて対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や施設概要説明を行っている。また、事前調査や情報交換を通して、利用者様や家族との馴染みの関係を築けるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーに、利用者 職員の関係ではなく、より家族に近い視点で接することを心がけている。しかし、慣れ慣れしなくなるように、ケアを提供する場合は気をつけて接している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	馴染みの関係を構築し、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	間接的もしくは、状況によって直接的に関わり支援を行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地で開催される行事等への参加(本人・家族の承諾を得て)を通して、関係の継続支援を行っている。また、友人や地区の方々が訪ねやすいような環境作りに努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様個人の性格や好み・状態に応じて、関わり支援を行っている。また、利用者間関係作りにおいても、誤解のないように、さりげなくフォローし、関係を保つ支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>契約を終了する場合であっても、必要に応じて、老健施設や病院を斡旋し、行き先がなくなるようなケースにならないよう支援を行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者様の立場に立って、物事を考え、無理なく希望や要望を引き出している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者様のこれまでの生活歴や生活環境の把握については、本人・家族・ケアマネージャー等から情報を得ている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の記録を活用し、総合的な把握に努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>状態変化があった場合、ケース会議を通して、課題提起や対応策を検討している。ケアプラン作成前に、面会や電話連絡などで、家族からの意見や意向を取り入れて、プランの作成(基本的に年2回)を行なっている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化があれば、必ず家族に電話連絡を行い、現状報告を行なう。その際に意見や要望を取り入れ、状態に応じた計画を策定する。その際は、状態一覧表(状態に対しての対応策やケア内容を表示)についても作成し、すばやい対応を図れるように努めている。</p>		<p>今後も介護計画を主軸とし、状態一覧表を活用して、細かなケア提供に努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(利用者様9人分の1日の記録)を個別記録に転記し、個人の情報をまとめることにより、状態変化がわかりやすくなり、適切な対応策を講じることができている。介護計画の見直しも定期的、状況に応じて実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当GHの機能で可能な限りの支援が行えるように、支援体制の幅を広げていきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現状においては、十分な協働ができていないが、運営推進会議を通して地域資源との協働を図っていく努力を行なっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望されれば、他のサービスを利用できるよう適切に支援していく。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護についてはまだ不十分であるが、長期的なケアマネジメントについては、情報交換を始め、連携を行なっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関(新和病院・岡田歯科医院他)との連携を密に行い、全入居者は主治医から月1回以上往診を受けている。主治医は入居者の状態をよく把握されており、状態変化があればすぐに対処して頂ける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症ケアに対して、指示・助言をもらえる医師を確保できている。(新和病院院長)		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当GHに勤務する看護職員を始め、医療機関その他と連携し、健康管理に役立っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の職員の面会や病院側からの状態報告にて常に状況把握を行っている。また、早期退院に向けての打ち合わせや協力は病院側からも積極的に協力して頂いている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の整備により、「看取り介護指針」を制定。ターミナルケアを視野に入れた取り組みを行っている。方針については、GH会議等で共有している。		ターミナルケアを提供する際には、本人の安楽、家族の要望、サービス実施内容、緊急時の対応方法などを詳しく協議した上で実施する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについては、未だ取り組んだ事例はないが、ターミナルケアを提供する体制はできている。ターミナルケアを提供する場合は、医療機関、家族と方針検討を密に行なっていく。		今後、ターミナルケアについての研修等を実施していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから移り住まれる際は、行き先の状況を勘察し、介護がしやすいような工夫やアドバイスを行なう。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけについては、定期的に状況把握・指導を行なっている。基本的には方言は多用せず、敬意を込めた声かけとなるように努めている。記録についても同様に、尊厳を重要視した記録内容を心がけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の意思をくみ取れるよう、穏やかな雰囲気作りを心がけている。また、職員の観察力の向上を目指し、定期的に研修会を実施、小さなサインでも見落とさないように気をつけている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや要望を尊重し、メニュー決めや日程決めでは、必ず利用者の要望を聞くようにしている。日程決めでは朝食時にある程度なにをするかを皆で話し合っている。この他にも、常日頃より、自分で選ぶということを入居者に意識していただいている。また、利用者様の要望を最優先させる方針でサービス提供を行っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の個性や好みを尊重した支援ができています。理・美容については希望があれば、原則的には家族で対応して頂いているが、家族の都合がつかない場合はこちらで付き添いも行うようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、利用者様の状態や好みに応じたものを提供している。調理の際には旬の食材と一緒に調理し、メニューに季節感を出している。また、定期的に、利用者様からのリクエストのご馳走の日、個別の誕生会、記念日の祝いを実施している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じて提供させていただいている。好きなものを一緒に買い物に行くのも喜ばれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを全利用者対象に実施し、入居者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を無理なく実施することができている。また、自力でトイレを使用される方へは、さりげなく見守りを行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員一人が行い、入居者は一人ずつゆっくりとしたペースで入浴して頂いている。毎日、昼夜と入浴可能である。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全入居者の睡眠状況を把握し、日中の活動にできるだけ参加して頂くことや、夜間はできるだけ物音を立てないように配慮し、安眠へとつなげている。寝つきが悪いと訴えられる入居者に対しては足浴などを実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割、楽しみごとは、それぞれの入居者が個性や趣味に応じて、日常の中で自発的に行われている。職員が役割を奪ってしまうことのないよう十分に注意している。気晴らし支援については、散歩やドライブなどが喜ばれるため、適宜対応している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者本人に行っているが、入居者の管理能力に応じて支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化などで、なかなか全員参加での外出は困難となってきている。通常時は個別の希望や状況に応じて外出支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り支援や、地区行事参加などの支援を行っている。最近では家族による外出支援が増えてきた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室環境を常に整える支援を行い、訪問時には座椅子やお茶、菓子等を提供し、くつろぎの時間を過ごしていただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を法人内で発足させ、全体的に取り組んでいる。また、研修会参加や勉強会等により、正しい知識を身につけ、実践するよう指導している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊される方がおられても、玄関などは鍵をかけないようにしており、玄関センサーや職員の見守りにおいて、危険防止を図っている。また、職員が出入りするときは、声かけを必ず行うようにし、入居者、来訪者と区別を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、様子観察については、各職員が細心の注意を払いながら行なっている。夜間についても、定期的に見守りを行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守り体制を整えることで、危険防止に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策委員会等の活動を通して、マニュアルの整備、ヒアリハット事例検討など、対応策を常に検討している。GH会議等を通して、職員への周知徹底を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、医師・看護師からの指示にて応急手当等を行える体制を整えている。また、普通救命講習受講を義務付け、適切な初期対応が図れるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を通して、火災や地震時の非難誘導訓練を行っている。また、管轄の消防署により、定期的な危険箇所チェック、防災対策へのアドバイスを頂いている。		今後も管轄の消防署と連携し、適切で迅速な災害対応ができるよう、適宜防災訓練を実施していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時等に、心配されるリスクを報告している。対応策についても、家族と話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃より、健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。体調変化があった場合には、早急に病院・家族へ連絡し、早期対応を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理等は看護師や責任をもって管理させている。その他の職員も薬剤情報提供書などから、効果・副作用・用法・用量を把握している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のため、牛乳や繊維食品などの提供を心がけており、排便間隔も排泄チェック表にて状況把握を行い、状況に応じたアプローチを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔清潔への呼びかけにより、全利用者が口腔清潔を心がけておられる。また、週1回以上、義歯消毒を実施し清潔を保つと共に、支援が必要な方についても本人の気分を害することなく、スムーズに行えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメント時に、平均的な食事量や水分摂取量を記入し、日々の食事・水分提供に役立てている。また、その日の状態、要望に応じて柔軟に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会、マニュアルの設置と施設内外で研修会を重ね、知識の向上を図ると共に、常々対応策を検討している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	丁寧な食器洗い、高温乾燥、定期的なハイター消毒などにより、調理器具等の衛生管理に努めている。食材については、毎日の買い物により、新鮮な食材の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	広々とした玄関設計、木目調の大きくて見やすい表札、周辺の花壇、プランター等により、家庭的な雰囲気を出せている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい生活空間の提供のため、常に照明には気を配っている。また、共同で利用される空間については、季節に応じた装飾を行っており、こまめに清掃を行っている。また、ゆったりとした時間となるように、職員はせかせかした動きにならないように注意している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や畳間を設けており、利用者が思い思いの場所で、気ままに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際に、使い慣れた家具の持込みを促し、入居者によっては使い慣れた電化製品、家具、思い入れの深い小物などが持ち込まれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日実施できている。室温管理についても十分注意している。トイレの換気や臭気対策も実施できている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建造物の設計段階から、高齢者向けとして考慮しており、浴槽・便座等の高さ、サイズ調整はもちろん、手すりにおいても要所には必ず設置し、流し台については入居者を見守りながら調理ができるようにと、テーブルと、向き合うように設置した。また、入居者の状態に合わせ、個室にも手すり等を設置した。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	紛らわしいものを置かず、騒がしい空間とならないように気をつけている。常に清潔を保つため、整理・整頓、清掃に力を入れている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを大きく設計、設置し、洗濯物干し、園芸に使用するだけでなく、季節に応じてバーベキューなどの食事会も実施している。テラスには照明を設置しており、夜間も使用可能である。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員それぞれの意見を、管理者・運営者はよく耳を傾け、反映させている。職員はのびのびと働き、自分たちで考えながらより良いサービス提供に努めている。管理者・運営者は軌道修正や助言を行なっている。

常日頃から、利用者様に対して自由な生活空間を提供できるように、環境面の整備を徹底している。また、利用者様からのサインを見逃さず、要望にすばやく対応するように努め、行動を制限する声かけを行わないようにしている。コミュニケーションにおいては、地方の方言を多用せず、丁寧な言葉かけを心がけ、明るく楽しいコミュニケーションをとるように努めている。また、利用者様の性格や好みに応じてアプローチを変え、「笑顔」を引き出す工夫を行なっている。

看護師の採用により、医療機関との連携、健康管理・機能訓練・余暇活動の充実を図ることができている。職員体制にも余裕ができ、ゆとりのあるサービス提供を実施できている。